

健八木の川柳アート

45

選者の悩み……

本欄に掲載できる作品はわずかだから、毎回胃に穴があくほど悩みます。掲載できなかった秀句とは、たとえば……
 姿見にお一人様が開くショー 大西知子
 妊娠は主治医が決まってからのこと 仙彦
 牛丼が好きな彼女で安くつく 岩間昇
 フムフム、ナルホド、ホホホ、ハハハ……。

特選

選者・川柳アート
八木健

〔月刊川柳総合誌「川柳マガジン」元選者〕



藤原 白男 (今治市)

一日分の水を貰って鉢で老い
 「植物に生まれなくてよかつたなあ。観葉植物は、世の中のことを知らずに鉢の中だけで生涯を終えるんだ」と、つぶやいた時に自身をイメージしたのである。人間もいつかはコップ一杯の水を楽しみにするようになるんだと。」

佳作



江戸あおい (松山市)

家計簿をいくらつけても金増えず
 無駄遣いをなくすために家計簿をつけるわけだが、簡単には増えない。歳末ジャンボ宝くじを買えば若干の可能性がある。支出を減らす良い方法はひとつだけ。それは家計簿などという無駄なものに出費しないこと。



田辺 進水 (松山市)

ATMに来る携帯に付き添われ
 「息子が会社の金を使い込んだ。早く弁済しなくちゃクビになるんでね」「あらら。うちの息子は電車の中で痴漢行為。三百万で示談してもらおうのよ」「うちの息子は……、あらら、考えてみたらうちには娘しかおらへんで……」



北川 正浩 (松山市)

漫画見て漢字が読め我が首相
 「ダメダメ漫画ばかり読んでちゃ」と母親。「麻生さんは漫画だけ読んで総理大臣になったじゃんか」と子が反論。母親が「漫画だけ読んできると総理大臣になったとき恥をかかわよ」と言えば、「大丈夫だよ、ルビをふっってもらうから」



金子 亶 (東温市)

乳がんがないかと触り妻の胸
 金子さん、乳房を子に奪われて以来、何十年ぶりの事件なのでしょう。「しこり」があるのかどうか入念なチェック、意識は純粹に医学的なものでなければ正確な触診にはなりませんよ。「しこりはないか堂々触り妻の胸」ですね。

古今の名句



鶴 彬

稼ぎ手を殺し勲章でだますなり
 明治四十二年、石川県生まれ。大正から昭和にかけての米騒動や婦女子の売買、日中戦争など悲惨な時代環境の中、プロレタリア川柳作家として活躍。二十九歳で獄死するまで九百句を作った。反戦川柳「手と足をもいだ丸太にかえし」で知られる。

今月の八木健



煙のように消えたばこ税値上げ案

やぎけん

煙のように消えたばこ税値上げ案
 アメリカ発の金融不安が世界恐慌の様相を見せる中、わが国では、相変わらず利権がモノをいう政治が続く。たばこ税値上げ案が消えたのは象徴的である。値上げは税収増だけでなく健康被害をなくして医療費抑制にもつながるのだが……。

本コーナーが
 待望の単行本化
 好評発売中!!

「八木健の川柳アート」では、川柳を募集しています。テーマは自由。未発表のオリジナル作品に限りません。採用された作品には八木さんが「川柳アート」を作り、本誌に掲載の上、採用者にプレゼントいたします。応募方法は36ページをご覧ください。